

質問紙調査の結果について

松本市教育委員会

質問紙調査は、小学校6年生と中学校3年生にそれぞれ75問が出されました。この中から、「基本的生活習慣」「家庭学習」「学校生活」「自尊意識・規範意識」「家族とのコミュニケーション」「テレビ」「携帯電話」の7つの項目について、本市の小学生・中学生の特徴をまとめました。

なお、表記の見方については、以下の説明を参考にしてください。

- 1 表記の数値は、特に説明のないものについては「している」「どちらかというとしている」「あまりしていない」「全くしていない」の四者択一のうち、「している」と「どちらかというとしている」を選択した児童生徒の割合を示しています。
- 2 全国との比較を示す数値については、その差を「ポイント」と表しています。（例：全国が88％、本市が92％の場合、本市は全国より「4ポイント上回る」と表現します。）
- 3 各項目のあとの□は、考察等を示しました。

全体的な傾向

○ 本市の小学生・中学生の状況を全国と比較するとほぼ同程度でしたが、ポイントが大きく異なっている項目には、次のようなものがありました。

小学生では「6時前に起床している児童」が17ポイント、「10時前に就寝している児童」が22ポイント高く、中学生では「普段、家の人と一緒に朝食や夕食を食べている」「新聞やテレビのニュースなどに関心がある」「海、山、湖、川などに行き、自然のすばらしさを感じたことがある」が5～6ポイント上回っています。

また、小学生・中学生に共通して全国と比較してポイントが高かったのは、「今住んでいる地域の行事に参加している」「テストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強している」です。

なお、携帯電話の所持率は全国に比べて低く、「携帯電話で毎日通話やメールをしている」児童生徒は、小学校では6ポイント、中学校では11ポイント下回っています。

○ 昨年度との比較においては、小学生・中学生とも、ほぼ同じ傾向を示していますが、次の項目については、やや変化が見られます。

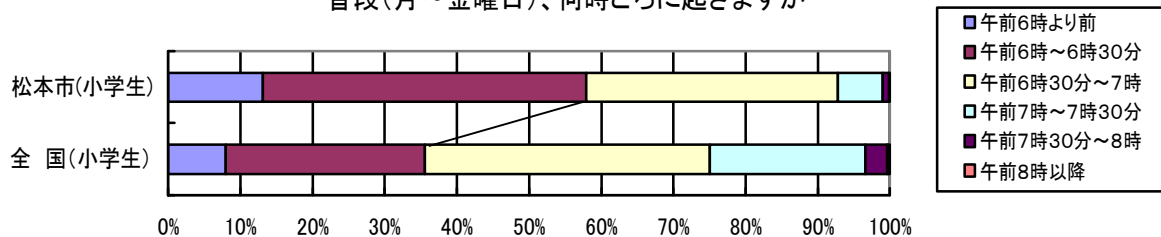
小学生では「家で学校の授業の復習をしている」が4ポイント上回り、「テレビ・ビデオを3時間以上視聴している」が10ポイント上回っています。中学生では、「体の不自由な人やお年寄りや困っている人を助けたことがある」「総合的な学習が好き、新しいことが発見できる」などの項目は、昨年より5～7ポイント高くなっていますが、「家の手伝い」は、逆に5ポイント低くなっています。

以上、本市の児童生徒の生活実態の全体傾向を質問紙から探ってみましたが、さらに7つの項目について分析・考察をしたものを次に示します。

<基本的生活習慣>

「普段の起床時刻」については、午前6時30分より前に起きる小学生が58％、中学生が60％で、全国よりも小学生で22ポイント、中学生で28ポイント高い状況です。

普段(月～金曜日)、何時ごろに起きますか

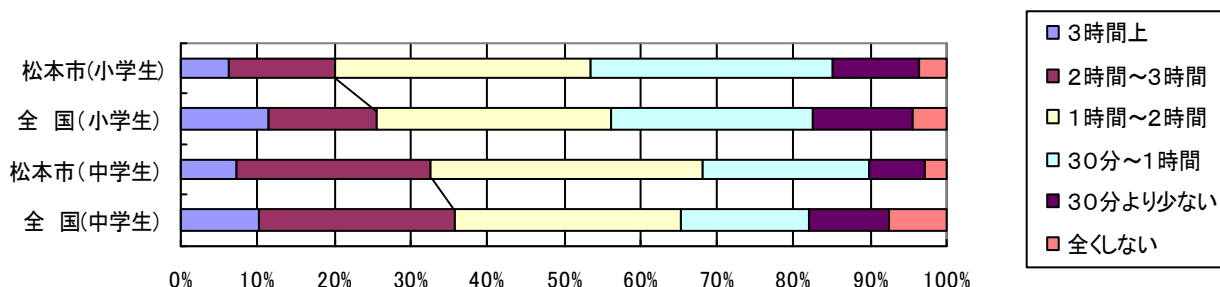


□ 昨年度に引き続き、早起きをして朝食を毎日食べる児童生徒が多い結果です。文部科学省で推進している「早寝早起き朝ごはん」国民運動が浸透し、本市では、早起き、朝食を食べるといった基本的生活習慣に対する保護者や児童生徒の意識が高いことがうかがえます。

<家庭学習>

- ◇ 「家で学校の宿題をする」児童生徒は、小学生96%、中学生86%です。小学生は全国と比べ同程度ですが、中学生は上回っています。
- ◇ 1日の家庭学習の時間については、小中学生ともに「1時間～2時間」が最も多く、小学生33%、中学生36%です。全国と比べて、「2時間以上」勉強する児童生徒は少なくなっています。

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)1日当たりどのくらいの時間勉強しますか

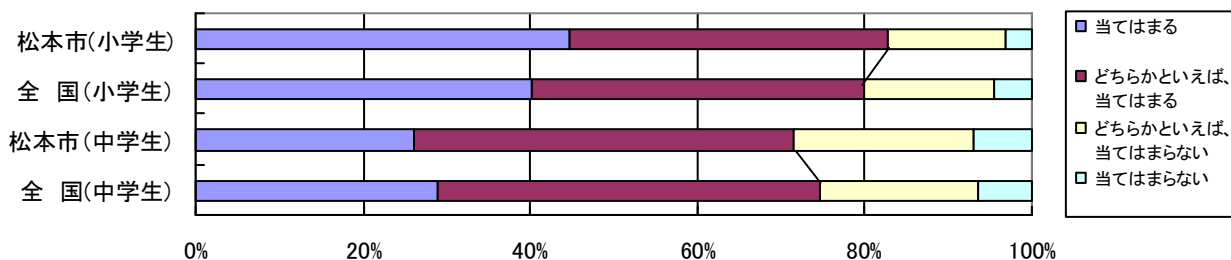


- 家で学校の宿題をする児童生徒の割合は高い結果となっています。家での学習時間が極端に多かったり少なかったりする児童生徒が全国平均より少ないことから、本市の児童生徒の家庭学習は宿題が中心であることがうかがえます。

<学校生活>

- ◇ 「学校で好きな授業がある」児童生徒の割合は、小学生94%、中学生81%で全国を2～3ポイント上回っています。
- ◇ 「普段の授業で、自分の考えを発表する機会を与えられている」と回答した児童生徒の割合は小学生が82%で全国を3ポイント上回っていますが、中学生は72%で3ポイント下回っています。

普段の授業で、自分の考えを発表する機会を与えられていると思いますか



- 多くの児童生徒が学校で友達とかかわったり、好きな授業を学習したりすることを楽しみを見いだしていると考えられます。しかし「授業で自分の考えを発表する機会がある」と感じている児童生徒の割合は小学生では全国平均より高いものの、中学生になると低くなっていることから、中学校では生徒の発言や活動の機会を増やしていくことが望まれます。

<自尊意識・規範意識>

- ◇ 「自分にはよいところがあると思う」割合は、小学生が78%、中学生が62%で、小学生では全国と比べて4ポイント上回り、中学生ではほぼ同程度の状況です。
- ◇ 「学校のきまりや規則を守っている」児童生徒の割合は、小学生が89%、中学生が90%、「友達との約束を守る」では、小・中学生とも97%であり、両項目とも全国とほぼ同程度の状況です。

- 小学校から中学校へ学年が上がるにつれ、学習の困難さや進路への不安、社会に対する疑問、友達との関わりや人との違いなどへの悩みなどが大きくなり、自尊意識が

もちにくくなる傾向が見られます。具体的な目標をもたせ、自分の力で最後まで着実にやりぬくことで達成感を味わう体験を重ねていくことが大切と思われま

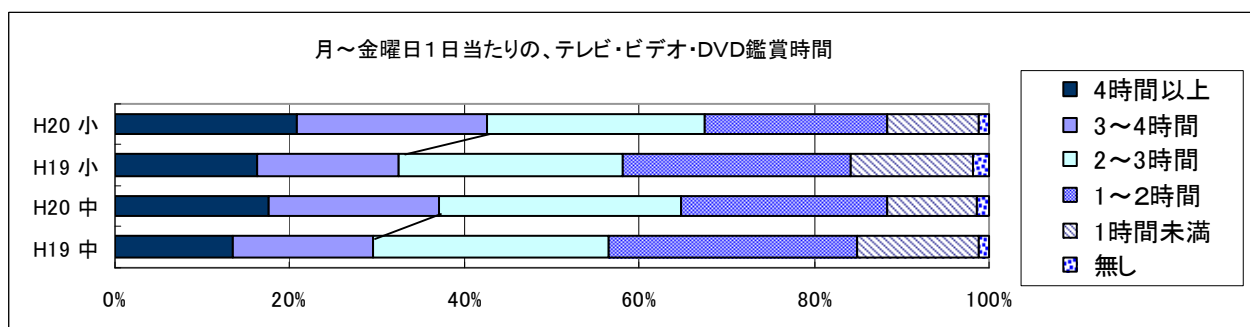
<家族とのコミュニケーション>

- ◇ 「家の人と普段、夕食を一緒に食べている」割合は、小学生 91%、中学生 87%で、全国と比較して小学生では 3 ポイント、中学生では 7 ポイント上回る状況です。
- ◇ 「家の手伝いをしている」割合は、小学生 82%、中学生 64%で、全国と比べて小学生で 4 ポイント、中学生で 3 ポイントと、やや上回っている状況です。

□ 昨年度に引き続き、家の人と夕食を一緒に食べる児童生徒の割合が全国と比べて高い状況にあります。今後も、本市の「家族団らん手づくり料理を楽しむ日」の取り組みを一層大切にしたいものです。

<テレビ>

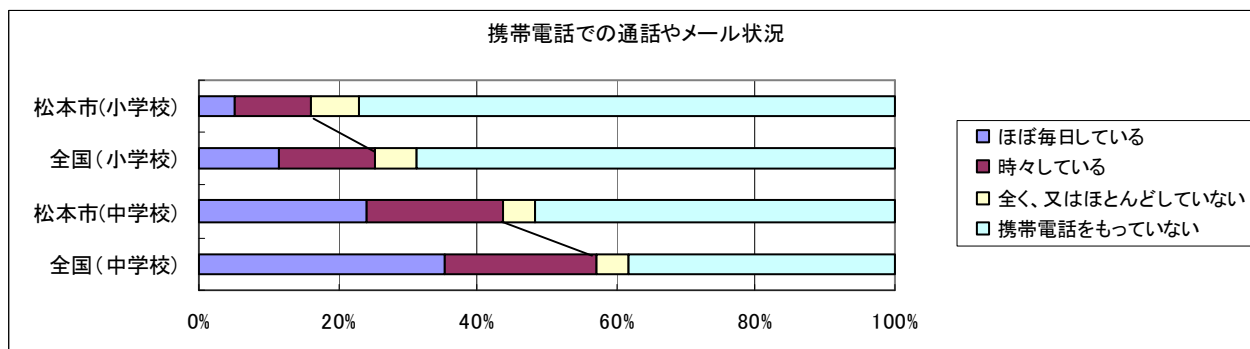
「普段一日あたりのテレビやビデオ・DVDを視聴する時間」は、3 時間以上の小学生が 43%、中学生が 37%であり、全国と比べると 3~4 ポイント少ない状況にありますが、前年度と比べると小学生では 10 ポイント、中学生では 8 ポイント増えており、全国でも同様の傾向が見られます。



□ 普段テレビ、ビデオ、DVDを3 時間以上見ている児童生徒が昨年よりも大幅に増えています。テレビ・映像づけの生活は、子どもたちの生活リズムや健康状態にも悪影響を及ぼすことが心配されます。時間を決めたり、学習や読書の際にはテレビのスイッチを切ったりするなど、家族で話し合ってみることが大切です。本項目については、今後の推移を注意深く見守っていく必要があります。

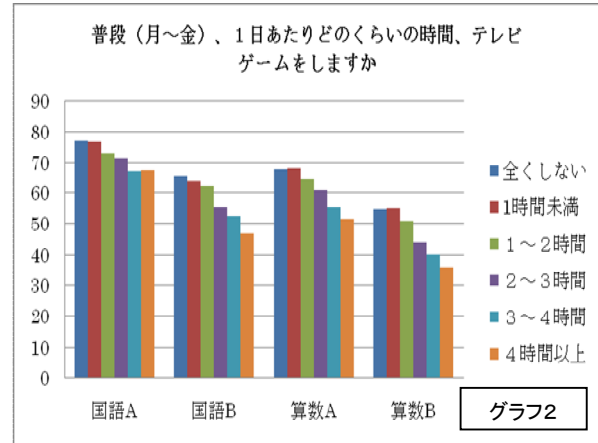
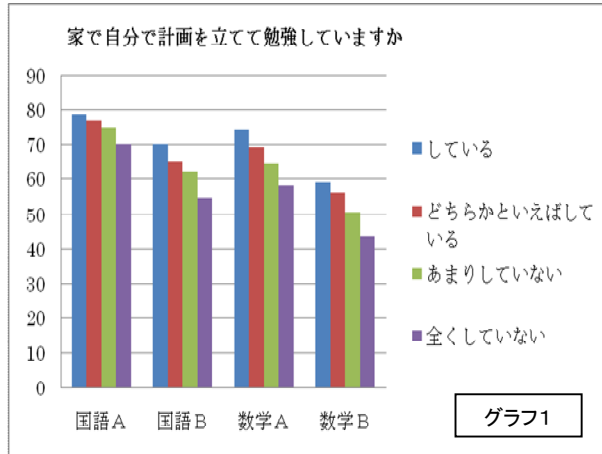
<携帯電話>

- ◇ 携帯電話を持っていない小学生が 77%、中学生が 52%で、全国と比較して小学生では 9 ポイント、中学生では 14 ポイント少ない状況です。
- ◇ 携帯電話の使用率は全国の小・中学生に比べて少ない状況にありますが、ほぼ毎日通話やメールをしている小学生が 5%、中学生は 24%います。



- 児童生徒の携帯の利用をめぐるっては、携帯電話に依存している状況やいじめ・犯罪等に巻き込まれる問題が指摘されています。携帯電話を持つ場合は、これらの問題を認識し、情報モラルの育成、安全の確保等について、家庭、学校で緊密な連絡をとりながら指導していくことが大切です。

学力状況調査と生活実態の相関について



- ◇ 上のグラフ1, 2は今回の学力状況調査と生活実態がどのように関係があるのか(相関)を示したものです。

グラフ1では「家で自分で計画を立てて勉強していますか(中学校)」という設問に対して、国語・数学の正答率との相関関係を表しています。2教科ともに「家で自分で計画を立てて勉強している生徒」の正答率が高く、「していない生徒」の正答率が右下がりに低くなっていることがわかります。

グラフ2では「普段1日あたりのテレビゲームをする時間と学力実態との相関(小学校)」について示しています。小学生でテレビゲームをする時間については、グラフ2のように相関が見られます。特に国語Bでは、テレビゲームを4時間以上する児童と全くしない児童との正答率の差が17ポイントあります。同様の結果が、中学生にも見られます。

なお、分析の結果、上記以外で相関が見られた項目は次のとおりです。

- 毎日朝食を食べている。
- 学校へ持ってくるものを前日かその日の朝に確かめている。
- 家で学校の宿題をしている。
- 普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられている。
- テストで間違えたところを後で勉強している。

以上、本市の児童生徒の生活実態を質問紙から探ってみましたが、「早寝・早起き、朝ごはんなどの規則正しい生活習慣」「学習時間の確保」「テレビやビデオなどの計画的な視聴」「家族とのコミュニケーション」「学校でのきまりよい生活」等が児童生徒の心の安定やものごとに対する関心・意欲を生みだし、学力の定着や向上にも深く関係していることがうかがえます。

今後、各学校で今回の調査結果を分析し、課題の明確化と指導の重点化を図り、保護者や地域等の理解と協力を得ながら、連携した取り組みを進めていくことが大切と思われます。